

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

栗原市の日本語学校と 大衡モスクの創設者



ナワズ アメル さん

パキスタン・イスラム共和国出身
合同会社ナワズ・シャヒーン・エンタープライゼス
N.S日本語学校代表
大衡村在住

——2022年10月に栗原市築館にN.S日本語学校を開校したそうですね。

私自身、日本語の読み書きが苦手で生活や仕事で苦労した経験から、これから日本へ来る外国人のために日本語学校を作ろうと決めました。仙台市内には日本語学校がいくつもありましたので、県北で候補地を探していたところ、栗原市築館に縁があって物件が見つかりました。人員確保など着々と進め、申請準備を始めたところでコロナ禍になってしまい、教職員体制の変更や学校のリフォーム中断などもあり、開校の時期が遅れました。「普通なら開校はあきらめるよ」と家族に言われましたが、「あきらめない」ことが信条なので、周りの協力を得ながらなんとか開校まで漕ぎつけました。

——開校後の様子を教えてください。

2022年10月に1期生14人、そして今年4月には35人を迎え入れ、午前と午後に分かれて授業をしています。留学生は今のところ全員ネパール人です。ほとんどの学生は専門学校などへの進学を希望して、熱心に勉強しています。学校に隣接した男子寮には9名が、そして他の学生は、学校から徒歩10分以内のアパートに住んでいます。

授業のない時間には、近距離にある食品加工の工場などでアルバイトをする学生が半分以上います。

地域の方々との交流も積極的に行っています。3月には栗原市国際交流協会主催の交流会に参加しました。当校の1期生がネパール料理の「モモ」を作って振る舞いました。最初は、日本語での会話に緊張していましたが、徐々に打ち解けて、楽しく過ごしたようです。今年8月には、地元の高校とサマーキャンプがあります。ネパール人は英語が堪能な人も多いので、高校生は英語を使って、留学生は日本語を使って交流する予定です。

——ナワズさんご自身のことについてお聞かせください。

私はパキスタン北西部にある都市ペシャワールの近くで生まれ育ちました。最初はアラビア半島東端のオマーンで中古自動車売買の事業をしていましたが、その後2006年12月に、知人がいる岩



N.S日本語学校にて留学生たちと - 中央左が齋藤校長先生、中央右がナワズさん

手県で同じ業種の会社を作りました。それから大衡村に事業に適した土地を購入することができたので移り、以後ずっと宮城県民です。家族は妻と3人の息子がいて、上の2人は、後継者として頑張っています。3番目は中学生です。妻は熱心に日本語を勉強し、大衡村で育った息子たちより漢字が得意かもしれません。近隣の方々と自家製の野菜を交換し合うほど仲が良く、すっかり地域に溶け込んでいます。

——ナワズさんは、大衡村にあるモスクの創設者としても知られていますね。

来日後、礼拝のために盛岡市の礼拝所(アパートの1室でした)や青葉区八幡にある仙台モスクなどに通っていましたが、通えない人も少なく、周囲に相談したところ、もっと通いやすいモスクを求める声が上がりました。そこで2014年に自宅敷地内の納屋を改装し、マルハバ イスラム文化センター大衡と名付けました。イマーム(集団礼拝の指導者)も同じ敷地内に住んでいます。彼は大衡モスクの専属で、ほぼ常駐していて、金曜日や日曜日の礼拝、またお祭りなどの宗教行事や葬儀などを執り行うと共に、コーランについて教えています。

金曜日や日曜日の礼拝には、県内各地のほか岩手県、山形県などから合わせて70~80人が集まります。国籍もパキスタン、バングラデシュ、インドネシア、インド、スリランカ、アフガニスタン、シリアなど様々です。車で通う人が多いですが、移動手段がない人たちもいて、私と2人の息子たちが送迎をしています。

東北圏内でムスリムが亡くなると、私のところへ連絡がきて葬儀を整えることもしばしばあります。イスラム教では、土葬以外の埋葬方法は禁忌とされています。以前日本生まれの子どもが亡くなったとき、東北で土葬できる場所がなく、関東で埋葬するのを手伝いました。しかし、ご両親が墓参するには遠すぎて、悲しみに暮れる様子を見て気の毒になりました。日本在住の自分たちにとって、土葬ができない状況は切実な問題です。

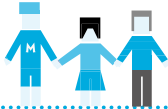
出入国在留管理庁から表彰されました

MIAは、本年5月、出入国在留管理庁 仙台出入国在留管理局から、「出入国在留管理庁共生社会推進賞詞」を授与されました。

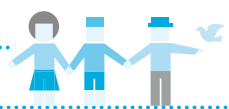
外国人支援通訳サポーターの紹介、外国籍児童生徒の支援、やさしい日本語の普及啓発などの取り組みが、多文化共生推進に資するものとして評価いただいたものです。

MIAでは、この受賞を励みとして、今後もさまざまな形で宮城の多文化共生推進に取り組んでいきます。

左から 仙台出入国在留管理局 磯部哲郎局長
MIA 三坂達也専務理事兼事務局長



シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



第8回 大郷町立大郷小学校非常勤講師・MIA外国人児童生徒支援アドバイザー 大竹 幸恵さん

日本語を学ぶ外国の子どもたちを支えるための学校における連携

小学校では主に担任が中心となり児童の学習や生活全般を指導します。学年主任、教科担任、養護教諭、栄養教諭等も各分掌に則った指導を行います。また※ALT、SC、SSW、支援員、事務職員、業務員、地域の方々等も指導の一端を担います。日本語指導が必要な外国籍の児童には、日本語指導教師とサポーターが指導に加わります。

外国籍の児童は日本語を学ぶと同時に日本の文化や習慣にも慣れていく必要があります。国と国との文化や習慣の違いはたくさんあり、それらを理解することが言語習得にも大きく影響します。

本校にはパキスタンの児童が五名在籍しています。日々の習慣としての大きな違いは、(イスラム教徒でも地域や家庭によって違いはありますが) 主なものとしてハラールという食品のみを摂取すること、お祈りや行事の参加等があげられます。

日本語指導教師は保護者や本人から配慮すべきことを確認しながら指導しています。同時にすべての教職員と情報を共有することも行います。このことより、教職員間で児童の実態のみならず背景にある文化や環境の違いやこれまでの学びの経緯等を共通理解することができ、多面的なアプローチでの指導が可能になります。児童理解を深めることは、指導内容を横断的又は縦断的に関連付けたり、連続性のある学びを提供したりする手立てとなり、ひいては児童の学びをより深めていくことにもつながっていきます。そしてそれは、児童の学習意欲を向上させる大きな要因にもなっていきます。

本校では、朝の会のときに各クラスを周り児童の出欠や体調の状況とその日の授業計画について担任と児童とで確認することが、一日の始まりです。二名の指導者が六名の児童の入り込み指導と取り出し指導を組み合わせながら行うため、授業内容を把握した上で、その日の指導が組み立てられます。また、校外学習や運動会、学芸会等の行事に参加する際にも宗教や習慣、これまでの経験を鑑みながら情報共有を行い、特別活動の目的に適った学びができるよう指導を進めていきます。これらの日々の小さな情報共有の積み重ねは、教職員間の「連携」として浸透していき、児童の学びの軸となります。

宮城県は全国で初めて「多文化共生社会の形成の推進に関する条例」を制定しました。その基本概念は国籍や民族の違いにかかわらず互いの文化的背景の違いを認め、人権を尊重し、共に生きる社会を目指すことです。そのために学校でできることは、まず教師間で連携しながら組織的に児童についての理解を共有することです。これからの多文化共生時代に生きる日本人の児童にとっても義務教育の段階から、意識・言葉・生活の壁を解消し、多様性を受け入れ、共に学ぶことに努めることを指導していく必要があります。そのことは、子どもたちが、将来グローバル人材として、成長する礎となっていくでしょう。外国籍の児童一人一人が輝ける場を提供することで、学校や地域社会への適応力が向上し、将来、どの場においても有益な社会参画が期待されます。

学校では双方が共に支え合える環境を整備し、日々異文化間能力をはぐくむよう、指導を行っているところです。

※ALT：外国語指導助手 SC：スクールカウンセラー SSW：スクールソーシャルワーカー

多文化 なトピック

新型コロナウイルス感染症 受診情報センター 多言語対応しています

宮城県に住んでいる人で、熱があって体の調子が悪いとき、または感染していて療養している間に具合が悪くなったとき、13の言語で相談できます。

電話番号 0120-056-203

対応言語	受付時間
英語・中国語・韓国語 スペイン語・ポルトガル語 日本語	毎日24時間
タイ語・ネパール語・ベトナム語 ロシア語・タガログ語 インドネシア語・ヒンディー語	月曜日～金曜日 8:30 ~ 18:00

宮城県 新型コロナウイルス感染症 受診情報センター
Miyagi Prefecture Medical Examination Information Center
COVID-19
多言語で相談できます Multilingual support is available
0120-056-203
英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・日本語・タイ語・ネパール語・ベトナム語・ロシア語・タガログ語・インドネシア語・ヒンディー語
※英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・日本語・タイ語・ネパール語・ベトナム語・ロシア語・タガログ語・インドネシア語・ヒンディー語
※英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・日本語・タイ語・ネパール語・ベトナム語・ロシア語・タガログ語・インドネシア語・ヒンディー語



MIA日本語講座 第2期が始まります！

MIA日本語講座を開講します。身近に日本語を勉強したい外国人がいいたら、ぜひご紹介ください。

多言語(日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ウクライナ語)のチラシも用意しています。

- 場所 宮城県国際化協会(MIA)
- 申し込み 事前の申し込みが必要です。
- その他 ウクライナからの避難民には、受講料の補助があります。



クラス	曜日	時間	期間	テキスト	受講料	定員
初級1 初級2	火～金	10:00～12:00	10月3日(火)～1月24日(水)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥22,000 ※テキスト代別	初級1・2 各15人
中級	火・木	13:00～15:00	10月3日(火)～1月23日(火)	『中級へ行こう 日本語の文型と表現55』	¥11,200 ※テキスト代別	15人
夜間初級1 夜間初級2	火	18:30～20:30	10月3日(火)～2月27日(火)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥12,000 ※テキスト代別	初級1・2 各15人

参加者募集！国際協力セミナー「ベトナムと宮城の絆」

JICA東北とMIAとの共催で毎年テーマを変えながら開催している国際協力セミナー。今回はベトナムにスポットをあてます。

県内には技能実習生や留学生、それから介護の現場などで専門職として働く方など、昨年12月末現在で約4,500人のベトナム人が暮らしています。その増加率は県内に暮らす外国人のなかでも突出しており、国籍・地域別では中国に次いで2番目の数となっています。

今回のセミナーでは、ベトナム・宮城のさまざまな現場で活躍・尽力している方々のお話をお聞きし、両者の関係の現在地や今後の更なる連携の可能性などについて考えます。ぜひご参加ください。

- 日時：2023年9月16日(土)開場13:30(予定)
- 会場：第一生命タワービル JICA東北プラザ(仙台市青葉区一番町4-6-1)
- 内容(予定)：イントロダクション：クイズで知るベトナム
講演・事例紹介：・宮城県によるベトナム人材の受け入れについて
・JICAによる国際協力事業(宮城県関連案件)の紹介
・介護の現場で活躍するベトナム人
- 主催：国際協力機構 東北センター(JICA東北)、宮城県国際化協会(MIA)
- お申し込み・お問い合わせ：JICA東北 市民参加協力課

thicjpp@jica.go.jp
022-223-4772



県内の介護施設で活躍するベトナム人技能実習生

MIA賛助会員募集

急速に進展する地域の国際化に対応し、よりすそ野の広い国際交流・国際協力・多文化共生社会推進活動を展開していくために、MIAの活動に賛同し、ご支援して下さる賛助会員を募集しています。個人・法人・団体、各方面からのご協力をお願い致します。ご加入希望者は、MIAまで電話・メール等でご連絡ください。

◎賛助会員の区分と年会費

- 個人会員 1口 3,000円
 - 団体会員(企業などの法人、任意団体など) 1口 10,000円
- ※1口以上、何口でも結構です。

◎賛助会員の特典

- 機関紙「倶楽部MIA」定期送付
- 主催イベントや各種講座の案内
- 日本語教材の貸出
- ☐個人会員対象 本協会提携旅行代理店が企画する国内外旅行の割引
- ☐団体会員対象 会員、社員向けの国際理解研修無償協力 企業会員への国旗無償貸出

参加者募集!2023外国につながる親子の夏休み教室inいしのまき



石巻地域に暮らす外国につながる親子を対象とした新たな企画です。子どもの学習支援を通じて、充実した夏休み生活のお手伝いをします。また、保護者向けには学校生活や高校受験、進路等に関する情報提供、個別相談、情報交換の場を設けます。

■日 時: 2023年8月20日(日) 14:00~16:00

■場 所: 石巻市総合福祉会館 みなと荘

■対 象: 外国につながる子ども(小学生、中学生)その保護者、サポートをする人など

■主 催: 石巻市(多文化共生推進事業「じゃぱneeds塾」)、宮城県国際化協会

■共 催: 国際サークル友好21、外国人の子ども・サポートの会

■参加費: 無料

■申 込: https://mia-miyagi.jp/230820summer_workshop_ishinomaki

内 容:	子ども	保護者
	● ボランティアによる夏休みの宿題や日本語学習等の支援 ● 科学あそび	● 子どもの学校生活、教育、進路等に関する情報提供 ● 先輩や先輩保護者の体験談 ● 個別相談



みやぎの国際活動団体

特定非営利活動法人 MISO (NPO法人 MISO)

私たち特定非営利活動法人 MISO (NPO 法人 MISO) は、東日本大震災からの復興を目的とし、国内外からの支援を被災地に届けたいという強い思いから設立された団体です。コロナ禍で制限されていた国際交流イベントも、今年は以前同様に戻りつつあり、たくさんの方とお会いできる機会があることを大変うれしく思います。近年はグローバルエデュケーション事業として、幼児教育分野でも国際化を図れるよう研修を企画運営しており、また、今年からは職業紹介事業にも着手し、より多くの外国人の方がここ宮城県で活躍できるよう就業サポート体制も整えております。普段は主にお子さん向けのネイティブ講師による英会話教室の運営をしておりますが、市民講座やカルチャークラスへも外国人講師を紹介させて頂くなど、大人の方にとってもより身近な海外文化普及の担い手でありたいと心がけております。最後に、MISO (みそ) は "Miyagi International Support Organization" の頭文字をつないだもので、この意味そのものの活動を理念としている団体です。応援どうぞよろしくお願いいたします。



イベントに参加する外国人講師たち

npo-miso.jp

サポーターの声

ネイサン ジョン バティさん (MIA国際理解教育支援事業講師 オーストラリア出身)



富谷高校で母国紹介をするネイサンさん

私の国、オーストラリアは移民が多く今や半数以上の人々が海外ルーツだと言われている。それに比べると日本は"外国人"がまだまだ少ないです。その割合を分かりやすく説明するために学校訪問の時に米を使いまして。一つは日本を表したカップでほとんどが白米ですが、もう一つのカップはオーストラリアを表し、白米と玄米が同じくらいに入っています。

オーストラリアから外に出て初めて、日本との違いや母国の良いところに気付いたことが多くあります。例えば、オーストラリアでは大人も長い休暇を取って旅行をしますが、日本では日帰りや数日だけの旅行をする人がほとんどで驚きました。またオーストラリアは多様性に寛容なことに、日本に来てから気が付きました。

学校訪問プログラムを通じて子どもたちが海外に興味を持ってくれたら嬉しいです。それから一生に一度でもいいから違う国で過ごしてほしいです。改めて母国(日本)の素晴らしさに気付くきっかけになるからです。

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



●賛助会員の資格

本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など

●賛助会員の区分と年会費

個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円

●賛助会員の特典

◎協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙
倶楽部MIAの定期送付(年6回)

◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免

◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
宮交観光サービス(株)

◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供

●入会方法

◎本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部MIA vol.128

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <https://mia-miyagi.jp>

